

鷹

鷹一つ見つけて嬉し伊良古崎

杜國が不幸を伊良古崎に訪れて鷹の聲折

ふし聞きて

夢よりも現の鷹でたのもしき

桑名に遊び熱田に至る

河豚

遊び來ぬふぐ釣りかねて七里迄

あら何ともなや昨日は過ぎて鰻と汁

鰻汁や鯛もあるのに無分別

兄弟くすし憎むや鰻と汁

生海鼠

生きながら一つに氷る生海鼠哉

蠣

蠣よりは海苔をば老の賣りもせで

乾鮭

乾鮭やなにがし殿は毛唐人

◇植 物

枯木

枯立つや生駒が嶽の松ばかり

その形見ばや枯木の山のたけ

木の葉

三尺の山も嵐の木の葉かな

柴の戸に茶を木の葉かくあらし哉

落葉

留守の間に荒れたる神の落ち葉哉

多度権現をすぐるとて

官人よ我が名を散らせ落葉川

百年の景色と庭の落葉かな

芭蕉名句選集

月の澤と聞えける明照寺旅の心をすまして

散紅葉 尊かる涙や染めて散る紅葉  
寒梅 臘梅や昔永井の金渡し

いと賢く覺え侍る儘に

早咲梅 梅椿早咲ほめんほみの里  
歸り花 波の花と雪も水にかへり花  
寒菊 寒菊や小糠のかゝる白のはた

熱田海塵亭裡の感を思ひ寄せて

水仙 水仙や白き障子のともうつり

三河にて白雲と云ふものゝ子二人へ桃先

桃後と名をあたへて

枯尾花

其の匂ひ桃よりしろし水仙花  
ともなくもならでや雪の枯尾花

熱田

枯草

草葱さへ枯れて餅買ふやどり哉

蕎麥刈

刈跡やものにまぎれぬ蕎麥の莖

冬菜

さし籠にむぐらの友や冬菜哉

麥生ゆ

麥生よき隠れ家や畑村

◇冬 雜

石涸れて水涸れめるや冬もなし  
我がために日はうらゝなり冬の空

芭蕉名句選集

冬庭や月もいとなる蟲の吟  
打よりて花入れ探れ梅こよみ  
霜に起き氷に枕する身かな

無季雜

かちならば杖つく坂を落馬哉

唐崎夜雨

琵琶の湖雨よ疎顔が松の葎

越後新潟にて

海に降る雨や戀しき浮身宿  
山の姿蠶が茶臼の覆ひかな

伊良に行く道越の人酔ふて馬に乗る

ゆきや砂馬より落ちて酒の癖  
武藏野やさはるものなき君が笠

三聖人

月花のこわやまことの主達

龍安寺

山鳥よ我とかも寝む宵まどひ  
盃にみつの名をのむ今宵かな  
勢なり氷消えては瀧津魚

季別題 芭蕉名句選集 終

大正十五年十一月五日印刷  
大正十五年十一月十日發行

定價九拾錢

不許  
複製

芭蕉名旬集與附

編輯者 工藤 淳

發行者 河村 豊藏

印刷者 井下 精一郎

印刷所 井下書籍印刷所

大阪市西區新町北通二丁目

積文館書店

電話(長)新町七五四番  
振替大阪一九三四五番

550

135

終

